

授業科目名	2 単位 (2－0)	担当教員
英語音声学 (The Sounds of English)		新垣 友子

授業の到達目標及びテーマ：英語音の発音方や発音のメカニズムを学ぶ。

授業の概要

英語の母音や子音がどのように発音されているのか、自分の口の中の構造を認識しながら、調音点や調音方法を意識して発音のメカニズムを学ぶ。個々の音の正しい発音、隣接する音とその影響、音節やアクセント、イントネーション等について学び。更に、音声記号の読み・書きを練習することにより、英語音により近い音が発せられるようになることを授業の目標とする。

予習：各章に出てくる単語を調べて、左ページの解説を読んでくる。

復習：各章で学んだ音声記号を読めて書けるように復習すること。自主学習用の CD で発音練習をすること。

授 業 計 画

第 1 回： イントロダクション&母音について Practice1	第 9 回： Lesson1 音節と語強勢
第 2 回： 母音について Practice2,3	第 10 回： Lesson2 文強勢
第 3 回： 母音について Practice4,5	第 11 回： Lesson3 ポーズ
第 4 回： 母音まとめ・クイズ	第 12 回： Lesson4 ピッチとイントネーション
第 5 回： 子音について Practice6	第 13 回： Lesson5,6 連結、脱落（1）
第 6 回： 子音について Practice7,8	第 14 回： Lesson7,8 脱落（2）、同化
第 7 回： 子音について Practice9,10	第 15 回： Lesson9,10 機能語の弱形と強形
第 8 回： 子音まとめ・クイズ	第 16 回： 定期試験

テキスト：今井由美子他 『Sounds make perfect 英語音声学への扉』英宝社

参 考 書：なし

評価方法・評価基準： 授業態度、小テスト、テスト

到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
定期試験 (中間・期末試験)	○						80%
小テスト・ 授業内レポート	○		○				10%
授業態度			○	○	○		10%
受講者の発表							
演 習							
その他							

履修上の注意：

- ・ テキスト・参考書の変更がないか各自確認すること。
- ・ 英語発音の仕組み（メカニズム）を捉えること。発音記号の読みと表記に慣れること。
- 指摘された発音上の弱点を克服すること。遅刻しないこと。

授業科目名		担当教員
英語学概論Ⅰ (Introduction to the Study of English I)		2 単位 (2－0)
		新垣 友子
授業の到達目標及びテーマ：英語とは何か、基礎的な英語の構造と機能を学ぶ。		
授業の概要		
英語史を概説し、音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論を紹介する。ことばの構造のみならず、英語が社会や文化とどのように関わっているか文化的側面からの考察も行なう。英語の成立や現況、各時代区分の特色、つづり字や多様性など英語の輪郭と背景を学ぶ。毎回課題を課し、応用問題やクイズで理解の確認を図る。		
予習：決められた章を読んでノートをとる。(テストはノート持ち込み可)		
復習：授業で配付するプリントの問題の復習		
授 業 計 画		
第 1 回： ことばの起源と語族、人間のことばと言語研究		第 9 回： ことばの意味にみられる主観性、ことばの意味とコンテキスト
第 2 回： 英語の発音とスペリング		第 10 回： まとまりのある文章、文中の情報構造
第 3 回： 英語の語彙と多様性、標準英語の成立		第 11 回： ことばのやりとりにおけるルール
第 4 回： 英語のバリエーション、ことばの変化		第 12 回： コミュニケーションの民俗誌、英語と文化
第 5 回： ことばと音声、音の組合せとアクセント		第 13 回： ことばと社会、ことばと国家
第 6 回： 単語ができる仕組み、文ができる仕組み		第 14 回： 日本の英語教育と教授法
第 7 回： 文の内部構造、ことばの意味		第 15 回： まとめ
第 8 回： 語の間の意味関係、意味の拡張		第 16 回： 定期試験
テキスト：長谷川瑞穂 編 『はじめての英語学』 研究社 (2006)		
参 考 書：なし		
評価方法・評価基準：		
授業態度や授業への参加度、期末テストの結果を総合的に判断する。		
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断
定期試験 (中間・期末試験)	○	
小テスト・ 授業内レポート	○	
授業態度		○
受講者の発表		
演 習		
その他		
履修上の注意：		
・ 予習や課題は義務であり必ず済ませて授業に参加すること。		

授業科目名	2 単位 (2－0)	担当教員						
高等英文法 (Advanced English Grammar)		新垣 友子						
授業の到達目標及びテーマ：大学生として英語で意見を述べる事ができる英文法力を養う								
授業の概要								
英文法・英作文Ⅰ～Ⅳで学んだことを基礎に、文法的に正しい文章を、自信をもって書けるようにする。自分の話す英語が文法的に正しいかどうかを自分で判断できる能力を磨き、自分の書いた英語の文法的誤りを自分で修正する能力を高める。特に、日本人の苦手とする文法事項について集中的に学ぶ。 予習 (preparation)：決められた章の問題を解き、解答して分からないところに印をつける。 復習 (review)：分からなかったところを中心に再度、問題を解く。								
授 業 計 画								
第 1 回： Introduction & Tense (Present and Past), Unit 1 - 6	第 9 回： Conditionals, Unit 36-39							
第 2 回： Tense (Present Perfect & Past), Unit 7 - 11	第 10 回： Passive, Unit 40-44							
第 3 回： Tense (Present Perfect & Past), Unit 12 - 17	第 11 回： Reported Speech, Unit 45-46							
第 4 回： Tense (Future) , Unit 18 - 24	第 12 回： Questions 47-50							
第 5 回： Review 1 時制まとめ	第 13 回： -ing&the infinitive, Unit 51-55							
第 6 回： Modals, Unit25-29	第 14 回： -ing&the infinitive, Unit 56-60							
第 7 回： Modals, Unit30-35	第 15 回： -ing&the infinitive, Unit 61-66							
第 8 回： Review2 時制・助動詞テスト	第 16 回： 定期試験							
テキスト： Raymond Murphy, <i>Grammar in Use Intermediate</i> , Cambridge								
参 考 書： なし								
評価方法・評価基準：								
Quiz、中間テスト、期末テスト、等を総合的に判断して評価する。								
成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
試験 (中間・期末試験)		○						80%
小テスト・ 授業内レポート		○						10%
授業態度				○	○			10%
受講者の発表								
演 習								
その他								
履修上の注意：								
・頻繁に Quiz を行うが、文法学習を英作文・口頭発表に役立てるものとして取り組むこと。 ・英文法・英作文Ⅲを履修済みか、それ相当の実力がある学生が受講すること。								

履修上の注意：

1. 遅刻： ①遅刻3回は1回の欠席となる。 ②20分以上の遅刻は、欠席となる。
2. 事前に教科書に目を通しておくこと（授業内の発言、有意義な議論につながる！）。
3. 英語教育関係の研究会、研修会へ積極的に参加し、指導力、研究力を高める。
4. 『英語教育』やその他の英語教育関連の雑誌等に目をとおす。

授業科目名	2 単位 (2－0)	担当教員					
英語学概論 II (Introduction to the Study of English II)		新垣 友子					
授業の到達目標及びテーマ：英語の構造と機能について理解を深める。							
授業の概要							
英語学概論 I で学んだことを基礎として、英語史、音声学、音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論に関する各分野の専門知識を深める。英語の文献を読み、演習やディスカッションを通して応用力・専門性の向上を図る。							
予習：決められた章を読んで、事前に配布する問題を解く							
復習：授業で行う解答を参考に内容を確認する							
授 業 計 画							
第 1 回： Why Study English Linguistics	第 9 回： How to Communicate with Other People: Pragmatics						
第 2 回： How Words Are Made: Morphology	第 10 回： The Sounds of English: Phonetics and Phonology						
第 3 回： How Words Mean: Semantics I	第 11 回： Regional Varieties of English: Sociolinguistics I						
第 4 回： How English Phrases Are Formed: Syntax I	第 12 回： English in Society: Sociolinguistics II						
第 5 回： How English Sentences Are Formed: Syntax II	第 13 回： How English is Acquired: Psycholinguistics						
第 6 回： How Sentences Mean: Semantics II	第 14 回： Review (2)						
第 7 回： Review (1)	第 15 回： Discussion						
第 8 回： Why Study English Linguistics	第 16 回： Final Examination						
テキスト：未定							
参 考 書：影山太郎他(2004) Introduction to English Linguistics 2 nd ed. くろしお出版							
評価方法・評価基準：							
授業態度や授業への参加度、課題やクイズ、期末テストの結果を総合的に判断する。							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
定期試験 (中間・期末試験)	○						60%
小テスト・ 授業内レポート	○						30%
授業態度			○	○			10%
受講者の発表							
演 習							
その他							
履修上の注意：							
・ <u>英語学概論 I を履修しておくこと。</u>							
・ 予習や課題は義務であり必ず済ませて授業に参加すること。							
・ 教材はほぼ英語で、かなりの英語力が要求されるため、その覚悟で授業にのぞむこと。							

授業科目名		2単位 (0－2)	担当教員																																
英日翻訳技法Ⅰ (English—Japanese Translation I)			浜川 仁																																
授業の到達目標及びテーマ 英日翻訳の際に留意すべき基本的技法を、演習を通して身につける。																																			
授業の概要 翻訳教材として用いる原文は、一般的な内容のもので、さまざまなスタイルや分野からとられている。しっかりした文法力と一般常識に基づく理解に添いつつ、いわゆる「直訳」にこだわらず、より自然な和文として訳出していくための翻訳技法を教授する。 予習：課題を翻訳しタイピングしておく。 復習：返却された課題と演習の指摘箇所を、訳案等をもとに再チェックする。																																			
授 業 計 画																																			
「トレーニングマニュアル」/「翻訳英文法」		「トレーニングマニュアル」/「翻訳英文法」																																	
第1回：	イントロダクション with『翻訳の極意』	第9回：	§9, §10／§11, §12																																
第2回：	翻訳デモンストレーション	第10回：	§11A／§13, §14																																
第3回：	§1, §2／§1, §2, §3, §6, §7, §8	第11回：	§11B／§15, §16																																
第4回：	§3／§4A, §4B, §4C	第12回：	まとめと小テスト																																
第5回：	§4／§5A	第13回：	§12／§17A, §17B, §17C, §17 D																																
第6回：	§5, §6／§4D, §5B	第14回：	§13／§18																																
第7回：	まとめと小テスト	第15回：	§14／§19A, §19B, §19C, §19D																																
第8回：	§7, §8／§9, §9A, §9B, §9C, §10	第16回：	まとめと小テスト																																
テキスト： テキスト（演習課題）は、クラスで配布する。																																			
参 考 書： ・『翻訳英文法トレーニング・マニュアル』安西徹雄（バベル・プレス） ・『翻訳英文法』安西徹雄（バベル・プレス）、 ・『翻訳の極意』小林淳夫（南雲フェニックス） ・その他																																			
評価方法・評価基準：以下を目安とし、評価する。																																			
<table><tr><td>到達目標等 成績評価</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断</td><td>関心・意欲</td><td>態度</td><td>技能・表現</td><td>その他</td><td>評価割合(%)</td></tr><tr><td>小テスト</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td>60</td></tr><tr><td>授業態度</td><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td>10</td></tr><tr><td>演習と課題</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td>30</td></tr></table>				到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)	小テスト	○	○			○	○	60	授業態度			○	○			10	演習と課題	○	○			○	○	30
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)																												
小テスト	○	○			○	○	60																												
授業態度			○	○			10																												
演習と課題	○	○			○	○	30																												
履修上の注意：課題はできるだけ毎週提出してほしい。英和・和英辞書を毎回忘れずに持参すること。																																			

授業科目名	2単位 (0－2)	担当教員					
日英翻訳技法Ⅰ (Japanese→English TranslationⅠ)		David Ulvog					
授業の到達目標及びテーマ 日英翻訳の際に留意すべき基本的技法を、演習を通して身につける。							
授業の概要 日英翻訳の際に留意すべき基本的技法を、演習を通して身につける。和文と英文の間に見られる、同義語上のニュアンスの違い、文法上の成り立ちの違い、表現の仕方の違いなど、両言語の特質上の相違から生じる様々な問題点を具体的に整理・検討する。翻訳教材は、和文を、英語検定試験準 2～2 級程度の語彙力と英文法構成力を基礎に、より自然な英文として訳出していくための翻訳技法を教授する。 予習(preparation) : Students must look at previous classes' techniques before each new class. 復習(review) : Students must review all new vocabulary, grammar, and translation techniques on an ongoing basis.							
授 業 計 画							
第 1 回： 和文英訳技法の基本－その 1	第 9 回： 動詞の選択－その 1						
第 2 回： 和文英訳技法の基本－その 2	第 10 回： 動詞の選択－その 2						
第 3 回： 日本文の主語→英文の主語－その 1	第 11 回： 使役動詞と態の用法－その 1						
第 4 回： 日本文の主語→英文の主語－その 2	第 12 回： 使役動詞と態の用法－その 2						
第 5 回： 日本文の主語→英文の主語－その 3	第 13 回： 和文英訳と英語の時制－その 1						
第 6 回： 英語的な主語－その 1	第 14 回： 和文英訳と英語の時制－その 2						
第 7 回： 英語的な主語－その 2	第 15 回： まとめ						
第 8 回： まとめ（中間）	第 16 回： 期末テスト						
テキスト： 演習課題（プリント）を、クラスで配布する。							
参 考 書： 和英と英和辞典（例文の多いの）							
評価方法・評価基準：授業参加レベル（参加度を含む）・課題・book report (20%)、中間テスト(40%)、期末試験(40%)を目安とし、総合的に評価する。							
到達目標等 成績評価 定期試験 (中間・期末試験)	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
	○	○			○		80
Book report			○	○			20
授業態度							
受講者の発表							
演 習							
履修上の注意：英和・和英辞典を毎回忘れずに持参すること。 Homework must be finished before reporting to class.							

授業科目名	2 単位 (2－0)	担当教員																																
英文学史 (History of British Literature)		浜川 仁																																
授業の到達目標及びテーマ 英文学史の流れをつかみ、イギリスおよび英語圏の歴史・文化への関心を高める。																																		
授業の概要 古代、中世からルネッサンス、産業革命を経て、20 世紀以降へと流れるイギリス文学の歴史について、歴史・文化・社会の背景を学びつつ、代表的な作品を読み解きながら理解を深める。 予習：該当する章を読み、テキスト中の代表的作品の抜粋についても目を通しておく。 復習：講義とハンドアウトを参考に、とくに解説の加えられた作品を再読する。																																		
授 業 計 画																																		
第 1 回： 教養とは何か	第 9 回： ロマン派 (2)																																	
第 2 回： チョーサー	第 10 回： まとめ																																	
第 3 回： シェイクスピア (1)	第 11 回： ビクトリア朝 (1)																																	
第 4 回： 17 世紀文学	第 12 回： ビクトリア朝 (2)																																	
第 5 回： ミルトン	第 13 回： モダニズム																																	
第 6 回： 18 世紀文学	第 14 回： 現代																																	
第 7 回： プレロマン	第 15 回： 期末試験																																	
第 8 回： ロマン派 (1)	第 16 回： まとめと期末レポートの提出																																	
テキスト： 神山妙子編著『はじめて学ぶイギリス史』（ミネルヴァ書房）																																		
参 考 書： ハンドアウトなど、その他の資料は適宜クラスで配布する。																																		
評価方法・評価基準： 以下を目安とし、評価する。																																		
<table><tr><td>到達目標等</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断</td><td>関心・意欲</td><td>態度</td><td>技能・表現</td><td>その他</td><td>評価割合 (%)</td></tr><tr><td>成績評価</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>期末試験</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td></td><td>90</td></tr><tr><td>授業態度</td><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td>10</td></tr></table>	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)	成績評価								期末試験	○	○	○		○		90	授業態度			○	○			10		
到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)																											
成績評価																																		
期末試験	○	○	○		○		90																											
授業態度			○	○			10																											
履修上の注意： 大きめの教室なので、とくに集中力を高めてしっかり講義についてきてほしい。																																		

授業科目名		2 単位 (2－0)	担当教員				
米文学史 (History of American Literature)			喜納 育江				
授業の到達目標及びテーマ							
講義を通してアメリカ文学史の全体図を概ね説明できる知識や理解を習得するほか、旺盛な知的好奇心と積極的な学習態度によって、アメリカ文学がアメリカ文化やアメリカ社会の形成にどのように関わっているかについて、講義で学んだ内容を自らの思考によって深め、最終的にはある米文学史において重要なテーマについての自らの見解を語れるようになることを目標とする。							
授業の概要							
この授業は、アメリカ文学を理解するうえで重要な作家と作品を選んで読み、その社会的・思想的コンテキストを歴史的に概観していく。イギリス・ヨーロッパによるアメリカ大陸の植民地化から、独立戦争、南北戦争を経て、モダニズムの時代から、第二次世界大戦に至るまで、アメリカが国家として歴史を重ねる中で、どのような文化や思潮を形成していったのかを辿り、それぞれの時代が生んだ文学作品に反映されるアメリカ文化について考察する。アメリカ文学・文化という研究分野への入門講座。							
予習：事前に配布する教材（英文）に目を通して、どのような作家や作品かをある程度認識しておくこと。							
復習：初回の授業で配布するシラバスに沿って、各回の授業内容について思い出しながら考える。							
授 業 計 画							
第 1 回：		アメリカ史のアウトライン					
第 2 回：		アメリカ大陸の征服と先住民とヨーロッパ人の関係の始まり					
第 3 回：		ピューリタンとアメリカ文学					
第 4 回：		先住民とピューリタンの関係					
第 5 回：		建国の父たち					
第 6 回：		アメリカ文学の文学的成熟					
第 7 回：		19世紀アメリカ詩					
第 8 回：		奴隷制度、南北戦争、奴隷制度廃止運動の文学（1）					
第 9 回：		奴隷制度、南北戦争、奴隷制度廃止運動の文学（2）					
第 10 回：		リアリズムと地域主義の文学（1）					
第 11 回：		リアリズムと地域主義の文学（2）					
第 12 回：		アメリカ社会と移民の文学					
第 13 回：		モダニズムの時代と文学					
第 14 回：		公民権運動から多文化主義へ					
第 15 回：		アメリカ文学の現在					
第 16 回：		期末試験					
テキスト：授業で配付するハンドアウト。その他のテキストについては随時告知する。							
参 考 書：亀井俊介著『アメリカ文学史講義』1～3巻、南雲堂 1998年							
評価方法・評価基準：							
期末テスト 50%、クイズ、レポート 30%、レスポンスなどを含む授業への参加貢献度 20%							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)	○	○					50%
小テスト・ 授業内レポート	○	○	○	○	○		30%
授業態度			○	○	○		20%
受講者の発表							評価に加えず
演 習							評価に加えず
その他			○	○			1/3 以上の欠席 で不可とする
履修上の注意：							
文学作品の背景知識を覚えればよいというのではなく、歴史の中で生まれたそれぞれの文学表現を実際に読むことも重視する科目でもあるので、授業にのぞむにあたっては、時間をかけた丁寧な予習を心がけてほしい。							

授業科目名		2 単位 (2－0)	担当教員																																																								
米国文学作品研究 I (Readings in American Literature I)			崎原 千尋																																																								
授業の到達目標及びテーマ： （技能・表現）文学作品を読む作業を通してtextual analysis（テキスト分析）の基礎を学ぶ。（思考・判断）その上でテキストと（１）米国の（黒人女性を主体とした）文化的、歴史的、政治的文脈に照らし合わせること、（２）race, gender, sexualityの基礎概念を理解することに焦点をあてる。（関心・意欲）アフリカ系アメリカ人女性の作品から読み解くテーマやメッセージがどのようにメインストリームのアメリカ文学や大衆文化・社会に影響してきたのかを考察する。また時代や空間を超えて今、沖縄に生きる私たちにどう呼応するのかを議論する。																																																											
授業の概要 （概要）テキストは Tony Morrison の <i>The Bluest Eye</i> (1970) を使用する。グループで割り当てられたチャプターを担当して概要や感想をシェアしながら読み進める。 （授業方法）その流れの中で ①作者やアフリカ系アメリカ人女性と文学作品に関する時代背景、②race, gender, sexuality の概念と文学の分析方法の基礎 (textual analysis) を学ぶための講義を盛り込む。Google+のコミュニティを利用してコメントをシェアし、各セクションでは感想ノートを提出する。期末は in-class エッセイ方式とする。 （予習）毎週の割り当て分のチャプターを読んでから授業に臨むこと。 （復習）Google+にコメントや質問をシェアしたり、わかりにくかった箇所は和訳を参照したりして理解を深めること。																																																											
授 業 計 画 第1回：イントロダクション 第2回： <i>The Bluest Eye</i> p. 1-32 第3回：グループ発表とディスカッション（1） 第4回： <i>The Bluest Eye</i> p. 33-58 第5回：グループ発表とディスカッション（2） 第6回： <i>The Bluest Eye</i> p. 59-93 第7回：グループ発表とディスカッション（3） 第8回： <i>The Bluest Eye</i> p. 95-131 第9回：グループ発表とディスカッション（4） 第10回： <i>The Bluest Eye</i> p. 132-163 第11回：グループ発表とディスカッション（5） 第12回： <i>The Bluest Eye</i> p. 164-205 第13回：グループ発表とディスカッション（6） 第14回：グループ発表とディスカッション（7） 第15回：まとめ 第16回：授業内試験：期末エッセイ																																																											
テキスト：Tony Morrison, <i>The Bluest Eye</i> (New York: Pocket Books, 1970) ※アマゾンで各自購入します。 ネットでの購入が難しい場合は相談してください。																																																											
参 考 書：トニ・モリスン著、大社淑子翻訳『青い眼がほしい』（早川書房） クラスで適宜、資料を配布または Google+のコミュニティに投稿する。																																																											
評価方法・評価基準：																																																											
<table><tr><th>到達目標等</th><th>知識・理解</th><th>思考・判断</th><th>関心・意欲</th><th>態度</th><th>技能・表現</th><th>その他</th><th>評価割合(%)</th></tr><tr><td>成績評価 試験 (中間・期末試験)</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td>30%</td></tr><tr><td>小テスト・ 授業内レポート</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td></td><td>30%</td></tr><tr><td>授業態度</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td>10%</td></tr><tr><td>受講者の発表</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td>30%</td></tr><tr><td>演 習</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>その他（課題）</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)	成績評価 試験 (中間・期末試験)	○	○	○				30%	小テスト・ 授業内レポート	○	○	○		○		30%	授業態度		○	○	○			10%	受講者の発表	○	○	○	○	○		30%	演 習								その他（課題）							
到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)																																																				
成績評価 試験 (中間・期末試験)	○	○	○				30%																																																				
小テスト・ 授業内レポート	○	○	○		○		30%																																																				
授業態度		○	○	○			10%																																																				
受講者の発表	○	○	○	○	○		30%																																																				
演 習																																																											
その他（課題）																																																											
履修上の注意：「米文学史」を履修していることが望ましい（必須ではない）。 1冊の文学作品をきちんと読み通すことが前提なので、予習を心がけてほしい。																																																											

授業科目名		2 単位 (2－0)	担当教員				
米国文学作品研究 II (Readings in American Literature II)			渡久山 幸功				
授業の到達目標及びテーマ							
知識理解：米国文学の主要な主題及び現代批評理論の基礎を説明できる。							
関心意欲：米国文学に興味を持てる。							
思考判断：様々な角度から文脈の解釈を実践する。							
態 度：文学作品を通して既成概念を批判的に観察する。20 世紀米国小説の特色を理解し、研究論文を作成する。							
授業の概要							
学期の前半は、主にアメリカ演劇から Tennessee Wiilimans の <i>A Streetcar Named Desire</i> (1947) および John Patrick の <i>The Teahouse of the August Moon</i> (1953) を講義し、後半は <i>The Great Gatsby</i> (1925) の米国小説を学ぶ。授業前半に学生は口頭発表を行い、後半に講義形式の授業形態となる。積極的にディスカッションに参加することを義務化する。最終的には講義で学んだ批評理論を援用して、演劇 2 作品に関しては、日本語による小論文（3000 字以上）最終的には <i>The Great Gatsby</i> の文学批評小論文（英文 A4 版 1 ページ 12 フォント 20 行 8 0 0 単語以上）を提出する。講義では文学研究に必要なアカデミックなライティングの手続きを習得する。							
予習：授業前の Reading Assugnment を必ず行うこと。（ <i>The Great Gatsby</i> では、毎回クイズを行います。）							
復習：講義で説明されたこと、ディスカッションしたことをまとめる作業。							
授 業 計 画							
第 1 回： コース・イントロダクション		第 9 回： <i>The Great Gatsby</i> 4					
第 2 回： Tennessee Williams: <i>A Streetcar Named Desire</i>		第 10 回： <i>The Great Gatsby</i> 5					
第 3 回： Tennessee Williams: <i>A Streetcar Named Desire</i>		第 11 回： <i>The Great Gatsby</i> 6					
第 4 回： <i>The Great Gatsby</i> 1		第 12 回： <i>The Great Gatsby</i> 7					
第 5 回： <i>The Great Gatsby</i> 2		第 13 回： <i>The Great Gatsby</i> 8					
第 6 回： John Patrick: <i>The Teahouse of the August Moon</i>		第 14 回： <i>The Great Gatsby</i> 9					
第 7 回： John Patrick: <i>The Teahouse of the August Moon</i>		第 15 回： <i>The Great Gatsby</i> 10					
第 8 回 <i>The Great Gatsby</i> 3		第 16 回： 定期試験					
テキスト： Tennessee Wiilimans の <i>A Streetcar Named Desire</i> (1947) John Patrick の <i>The Teahouse of the August Moon</i> (1953) F. Scott Fitzgerald <i>The Great Gatsby</i> (1925)							
参 考 書： Lois Tyson <i>Critical Theory Toeday: A User-Friendly Guide</i> (2006)							
評価方法・評価基準： 定期試験：（2 0 %） ディスカッション貢献度：（1 0 %） 和文・英文小論文：（4 0 %） 発表：（1 0 %） その他（クイズ課題）：（2 0 %）							
成績評価 到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合（%）
試験 （中間・期末試験）	○	○					2 0
小テスト・ 授業内レポート	○	○			○		4 0
授業態度			○	○			1 0
受講者の発表							1 0
演 習							評価に加えず
その他（課題）							2 0
履修上の注意：欠席 5 回以上は単位を与えない。討論に積極的に参加する事。 和文・英文小論文に剽窃行為がある場合には、評価は 0 点とする。 米国作品研究 I の単位取得済みの方が望ましい。							

授業科目名		2 単位 (2－0)	担当教員					
英国文学作品研究 I (Readings in British Literature I)			浜川 仁					
授業の到達目標及びテーマ 18 世紀後半から 19 世紀初めの英国の政治・社会状況を把握しつつ、英国文学への造詣を深める。								
授業の概要 Jane Austen の <i>Pride and Prejudice</i> (1813) を題材に作品研究を行う。作家の研究及びこの作品の精読からなる文学批評の基礎演習である。授業はセミナー方式で行う。毎回、読書課題があり、クラスではそのサマリーや感想、並びに課題箇所についての討論を行う。学期の中頃と期末には小論文を提出する。 予習：該当するチャプターについて情報に目を通しておく。 復習：小論文と期末テストに備え、講義内容の整理につとめる。								
授 業 計 画								
第 1 回： オースティンの時代		第 9 回： Chapters 35～40						
第 2 回： Chapters 1～6		第 10 回： " 41～43						
第 3 回： " 7～11		第 11 回： " 44～47						
第 4 回： " 12～17		第 12 回： " 48～52						
第 5 回： " 18～22		第 13 回： " 53～56						
第 6 回： " 23～28		第 14 回： " 57～61／第二回論文提出						
第 7 回： " 29～34／初回論文提出		第 15 回： 期末試験						
第 8 回： まとめ		第 16 回： まとめ						
※第 2～6 回、第 9～14 回にサブ教材についての説明や映画鑑賞もある。								
テキスト： Jane Austen 著 <i>Pride and Prejudice</i>								
参 考 書： サブテキストなど、その他の資料は適宜クラスで配布する。								
評価方法・評価基準： 以下を目安とし、評価する。								
到達目標等		知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
成績評価								
期末試験		○	○			○		70
小論文・レポート		○	○			○		20
授業態度				○	○			10
履修上の注意：積極的にディスカッションに参加して欲しい。								

授業科目名		2単位 (2－0)	担当教員				
英国文学作品研究Ⅰ (Readings in British LiteratureⅠ)			渡久山 幸功				
授業の到達目標及びテーマ：知識理解：19世紀後半から20世紀のアイルランド文学の主要な主題及び現代批評理論の基礎を説明できる。 関心意欲：英国文学に興味を持てる。 思考判断：様々な角度から文脈の解釈を実践する。 態 度：文学作品を通して既成概念を批判的に観察する。アイルランド文学の特色を理解しながら、現代文学理論の基礎を援用し、詩や短編小説を批評分析する能力を身に付ける。 英文の読解力を付ける。							
授業の概要：W.B. YeatsとSeamus Heaneyの詩、およびJames Joyceの短編集 <i>Dubliners</i> (1914) のアイルランド文学の作品研究を行う。テキストを精読し、毎回の授業では、前半に学生は口頭発表を行い、後半に講義形式の授業形態となる。積極的にディスカッション（討論）に参加することを義務化し、最終的には講義で学んだ批評理論を援用して、文学批評小論文（英文 A4 版 1 ページ 12 フォント 20 行 600 英単語以上）を提出する。講義では文学研究に必要なアカデミックなライティングの手続きを習得する。 予習：授業前の Reading Assugnment を行うこと（毎回クイズを行います。） 復習：講義で説明されたこと、ディスカッションしたことをまとめる作業。							
授 業 計 画							
第1回：コース・イントロダクショ W.B. Yeats	第9回：Clay						
第2回：W.B. Yeats	第10回：A Painful Case						
第3回：W.B. Yeats	第11回：The Dead						
第4回：W.B. Yeats	第12回：The Dead						
第5回：Araby	第13回：Seamus Heaney						
第6回：Eveline	第14回：Seamus Heaney						
第7回：The Boarding House	第15回：Seamus Heaney						
第8回：Counterparts	第16回：定期試験						
テキスト：James Joyce 著 <i>Dubliners</i> (1914) Yeats Heaney の詩はプリント配布。							
参 考 書：サブテキストや批評論文は適宜クラスで配布する。							
評価方法・評価基準：定期試験：(25%) 英文小論文：(25%) クイズ：(30%) ディスカッション貢献度：(10%) 発表：(10%)							
成績評価 到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)	○	○					25
小テスト・ 授業内レポート	○	○			○		25
授業態度			○	○			10
受講者の発表				○	○		10
演 習							評価に加えず
その他(クイズ)	○		○				30
履修上の注意：欠席5回以上は単位を与えない。討論に積極的に参加する事。 英文小論文に剽窃行為がある場合には、評価は0点とする。							

授業科目名		2 単位 (2－0)	担当教員																																	
英国文学作品研究 II (Readings in British Literature II)			浜川 仁																																	
授業の到達目標及びテーマ 19 世紀英国の政治・社会状況を把握しつつ、英国文学への造詣を深める。																																				
授業の概要 Charlotte Brontë の <i>Jane Eyre</i> (1857) を題材に作品研究を行う。作家の研究及びこの作品の精読からなる文学批評の基礎演習である。授業はセミナー方式で行う。毎回、読書課題があり、クラスではそのサマリーや感想、並びに課題箇所についての討論を行う。学期の中頃と期末には小論文を提出する。 予習：該当するチャプターについて情報に目を通しておく。 復習：小論文と期末テストに備え、講義内容の整理につとめる。																																				
授 業 計 画																																				
第 1 回： ブロンテの時代		第 9 回： Chapters 21～23																																		
第 2 回： Chapters 1～3		第 10 回： Chapters 24～26																																		
第 3 回： Chapters 4～7		第 11 回： Chapters 27～28																																		
第 4 回： Chapters 8～11		第 12 回： Chapters 29～32																																		
第 5 回： Chapters 12～15		第 13 回： Chapters 33～34																																		
第 6 回： Chapters 16～17		第 14 回： Chapters 35～38／第 2 回論文提出																																		
第 7 回： まとめ		第 15 回： 期末試験																																		
第 8 回： Chapters 18～20／初回論文提出		第 16 回： まとめ																																		
テキスト： Charlotte Brontë 著 <i>Jane Eyre</i>																																				
参 考 書： サブテキストなど、その他の資料は適宜クラスで配布する。																																				
評価方法・評価基準： 以下を目安とし、評価する。																																				
<table><tr><td>到達目標等 成績評価</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断</td><td>関心・意欲</td><td>態度</td><td>技能・表現</td><td>その他</td><td>評価割合 (%)</td></tr><tr><td>期末試験</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td><td>70</td></tr><tr><td>小論文・レポート</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td><td>20</td></tr><tr><td>授業態度</td><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td>10</td></tr></table>		到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)	期末試験	○	○			○		70	小論文・レポート	○	○			○		20	授業態度			○	○			10			
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)																													
期末試験	○	○			○		70																													
小論文・レポート	○	○			○		20																													
授業態度			○	○			10																													
履修上の注意：積極的にディスカッションに参加して欲しい。																																				

授業科目名	4 単位 (0－8)	担当教員					
Oral Communication IV							
授業の到達目標							
The principal goal of these classes is to continue improving ability to communicate in English. Students should be starting to show considerable skill and confidence in their English communication skills. They will now be looking to take their communication to the next level, which will involve a lot more speaking without preparation, without reference to notes, in a smooth and confident manner. Students will also find the content of the class to be more practical, requiring students to communicate in meaningful ways to achieve various goals and tasks. This more closely mirrors real-life communication.							
授業の概要：							
This course will increase students' fluency in English. It will assist them in engaging more actively in their own learning and prepare them to be able to express their opinions in English. Students will focus on improving listening and speaking skills, and they will actively participate in class by asking and answering questions, engaging in group discussions and giving oral presentations. In addition to attending class, students should improve their ability in spoken English through CALL systems.							
予習：Students must prepare for regular tests and quizzes, and should also prepare vocabulary needed for upcoming lessons							
復習：Students should review all vocabulary, grammar, and communication skills covered in previous classes, and aim to use them in upcoming classes							
授 業 計 This may change depending on the textbook.							
第 1 回：	Module One- Building awareness of situational conventions	第 9 回：	Module Four- Speaking professionally				
第 2 回：	Module One- Building awareness of appropriateness of questions	第 10 回：	Module Three- Four assessment				
第 3 回：	Module Two- Developing problem-solving skills	第 11 回：	Module Five- Creative problem solving				
第 4 回：	Module Two- Building awareness of politeness	第 12 回：	Module Five- Presenting to an audience				
第 5 回：	Module One- Two assessment	第 13 回：	Module Six- Reflecting on acquired skills				
第 6 回：	Module Three- Agreeing, disagreeing and stating opinions	第 14 回：	Module Six- Interviewing				
第 7 回：	Module Three- Practicing presentation skills	第 15 回：	Assessment				
第 8 回：	Module Four- Professional presentation skills						
テキスト：To be confirmed							
参 考 書：A good English-Japanese dictionary with lots of example sentences. Also, students need to keep a personal English language notebook while studying at OCU.							
評価方法・評価基準：							
Class participation, groups discussions, oral presentations, listening tests, short tests (quizzes), end-of-semester test, other methods as determined by the instructors. Your teacher will explain clearly in his or her syllabus, at the beginning of the semester. Grades will be based upon the school grading policy.							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
定期試験 (中間・期末試験)	○		○		○		40
小テスト・ 授業内レポート	○		○	○	○		20
授業態度			○	○			20
受講者の発表							
演 習							
授業への参加度			○	○			20
その他							
履修上の注意：All Students must keep a personal English language notebook while studying at OCU.							

授業科目名	4 単位 (0－8)	担当教員					
Oral Communication V		Christopher Valvona					
授業の到達目標							
Because this is the highest level of oral communication, students will be expected to perform at a suitably high level. This means that throughout the course, students should be aiming to communicate solely in English, using language that is well-pronounced, articulated, and of a sufficiently high-level and appropriate register. Grammar mistakes should be avoided, although the principal aim is, as with all other levels of Oral Communication, to actually USE English and communicate a message. Students should also aim to have found their own ‘right way’ to study in the future.							
授業の概要：							
This class will provide a bridge to higher-level courses including Public Speaking, Debate & Discussion, and Advanced Communication. Students will focus on developing the ability to accurately understand lectures, reports or announcements, and then properly express their opinions based on such information. Through numerous activities including role-playing, debate and discussion, presentation and suchlike, the skills necessary for advanced communication will be acquired: exchanging remarks, expressing counterarguments, verifying facts and apologizing. In addition to attending class, students should improve their ability in spoken English through CALL systems.							
予習：Students must prepare for regular tests and quizzes, and should also prepare vocabulary needed for upcoming lessons							
復習：Students should review all vocabulary, grammar, and communication skills covered in previous classes, and aim to use them in upcoming classes							
授 業 計 画：Subject to change depending on the textbook selected.							
第 1 回：Module Eight- Review Countries and Cultures	第 9 回：Module Twelve- Must Have It						
第 2 回：Module Nine- Old and New	第 10 回：Module Thirteen- The Right Kind of Person						
第 3 回：Module Nine- Exciting New Competition	第 11 回：Module Thirteen- Discussion						
第 4 回：Open Discussion	第 12 回：Module Fourteen- Building Your Dreams						
第 5 回：Module Ten- Health Problems	第 13 回：Module Fifteen- Money, Money, Money						
第 6 回：Module Eleven- The Best things in Life	第 14 回：Module Sixteen- Imagine						
第 7 回：Module Eleven- Discussion	第 15 回：Review						
第 8 回：Midterm assessment							
テキスト：Dependent on the teacher. Please check for the required text <u>for your teacher</u> at the bookstore.							
参 考 書：n/a							
評価方法・評価基準：							
Class participation, oral presentations, listening tests, short tests (quizzes), end-of-semester test, other methods as determined by the instructors. Grades will be based upon the school grading policy							
到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
成績評価 定期試験 (中間・期末試験)	○		○		○		40
小テスト・ 授業内レポート	○		○	○	○		20
授業態度			○	○			20
受講者の発表							
演 習							
授業への参加度			○	○			20
履修上の注意：All Students must keep a personal English language notebook while studying at OCU							

授業科目名	2 単位 (0－2)	担当教員																																																								
Accessing Digital Media I		Daniel Broudy																																																								
授業の到達目標 本科目の目標は、様々な英語による音声メディア（ラジオ、TV、映画、音楽、インターネットなどの音声メディア）を通して行われるコミュニケーションに対応すべく、正確なリスニング力を養成することである。視覚情報やその背景知識（文化的、社会的、政治的知識）を活用して、かなりのスピードで話される英語を理解する聴力技術を身につける。リスニング力養成の過程で、メディア情報の正当性、ニュース情報の解釈、様々なキャンペーンとプロパガンダの識別、ビジネス広告の理解、文化的偏見についても学ぶ。																																																										
授業の概要 This course introduces students to communications in western culture conveyed through various forms media and artful expression over the past decades. Subject matter covers a range of topics and cultural themes of societal import. Students see and hear communication within social, political, commercial, and entertainment contexts in order to study and understand the complex ways in which meaning is given shape through a variety of rhetorical strategies. Students practice listening skills and perceiving meaning through context, tone and register. 予習(preparation) : Students can prepare for each class by referring to the guidance offered for readings after HW 復習(review) : Students are expected to review all readings and discussions taken up during each class period.																																																										
授 業 計 画 : Day 1 > Introductions / performance poetry / HW review transcripts and answers Day 2 > Commercial advertising (Contemporary) / HW review transcripts and answers Day 3 > Contemporary pop songs (Themes of romantic love) / HW review transcripts and answers Day 4 > Political speeches (Themes of antiwar) / HW review transcripts and answers Day 5 > Political songs (Themes of antiwar) / HW review transcripts and answers Day 6 > Film (Political themes) / HW review transcripts and answers Day 7 > Cartoons (Political satire) / HW review transcripts from Day 1 to Day 7 for Midterm exam Day 8 > Midterm exam Day 9 > Film (Social themes) / HW review transcripts and answers Day 10 > Commercial advertising (1990s) / HW review transcripts and answers Day 11 > Songs (1990s Pop culture) / HW review transcripts and answers Day 12 > Film (Fantasy and science fiction) / HW review transcripts and answers Day 13 > Political Speeches (Social justice) / HW review transcripts and answers Day 14 > Performance Poetry / HW review transcripts and answers Day 15 > Cartoons (Consumerism satire) / HW review transcripts from Day 9 to Day 14 for Final exam Day 16 > Final exam / HW review transcripts and answers																																																										
テキスト： Handouts of course materials and/or readings are provided for students in each class.																																																										
参 考 書： Students are expected to take notes and review their notes.																																																										
評価方法・評価基準： Your final grade is calculated from scores on exams and in classroom participation.																																																										
<table><tr><th>到達目標等</th><th>知識・理解</th><th>思考・判断</th><th>関心・意欲</th><th>態度</th><th>技能・表現</th><th>その他</th><th>評価割合(%)</th></tr><tr><td>成績評価 定期試験 (中間・期末試験)</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>60</td></tr><tr><td>小テスト・ 授業内レポート</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>授業態度</td><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td>20</td></tr><tr><td>受講者の発表</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>演 習</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>その他</td><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td>20</td></tr></table>			到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)	成績評価 定期試験 (中間・期末試験)	○	○					60	小テスト・ 授業内レポート								授業態度			○	○			20	受講者の発表								演 習								その他			○	○			20
到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)																																																			
成績評価 定期試験 (中間・期末試験)	○	○					60																																																			
小テスト・ 授業内レポート																																																										
授業態度			○	○			20																																																			
受講者の発表																																																										
演 習																																																										
その他			○	○			20																																																			
履修上の注意： Participation is a major part of this course. This means that coming to class on time and focusing on the work is necessary for success. Surfing the Internet, playing on social networking sites, playing with your mobile phone, or some other electronic device not related to the course, will affect your participation score.																																																										

授業科目名	2 単位 (0－2)	担当教員
Public SpeakingⅡ		Simon Robinson
授業の到達目標 Allowing the students to further develop their ability to make engaging presentations in English		
授業の概要 This course will build on the experience of Public Speaking I to further develop the students' ability to make presentations in English. It will follow a similar format in that students will make presentations followed by a feedback session to assess what was good and what could be better next time. We will take the checklist we used in PSI and expand on it to promote a natural speaking presence on stage, and we will also add a Question-and-Answer session at the end to test the students' ability to react to audience questions with intelligent and informative responses. 予習(preparation) : students must regularly prepare to speak publicly about a given topic and also prepare for the group practice activities 復習(review) : techniques about public speaking learnt in each class must be reviewed before each following class		
授 業 計 画 ※講義内容は、変更することがあります。		
第 1 回 :	Class Orientation and Introduction, basic self-introductions, review of PSI, introduce Q&A	第 8 回 : Free Presentations Round 2 (2)
第 2 回 :	Self-introductions with Q&A	第 9 回 : Free Presentations Round 2 (3)
第 3 回 :	Free Presentations Round 1 (1)	第 10 回 : Free Presentations Round 3 (1)
第 4 回 :	Free Presentations Round 1 (2)	第 11 回 : Free Presentations Round 3 (2)
第 5 回 :	Free Presentations Round 1 (3)	第 12 回 : Free Presentations Round 3 (3)
第 6 回 :	Focused Practice Exercises (contents to be decided during the course)	第 13 回 : Exam Presentation (1)
第 7 回 :	Free Presentations Round 2 (1)	第 14 回 : Exam Presentation (2)
		第 15 回 : Exam Presentation (3)
テキスト : This course will use a handout prepared by the teacher - students will need to buy this from kyoumuka		
参 考 書 : Preparation for the presentations is an important part of this course - students will need to prepare outside of class time.		
評価方法・評価基準 : Participation30%、Free Presentations20%、Exam Presentations40%		
履修上の注意 : <u>Public Speaking & Oral Presentation I（2 単位）を履修済みのこと。</u> My aim for this course is to give students as much practice as possible at presenting in order to really develop their skills in preparation for the final exam.		

授業科目名	2 単位 (0－2)	担当教員
Discussion & Debate II		Simon Robinson
授業の到達目標 Further developing the students' ability to engage in strong debate in English on topics related to the students' experience.		
授業の概要 In this course we will expand the students' ability to engage in strong debate either agreeing or disagreeing with a controversial opinion that relates to the students' experience. In particular we will expand the student's ability to debate on social issues that are broader in scope than the daily-life topics we covered in D&DI 予習(preparation) : Students must arrive suitably prepared for the debate that will take place in each class. 復習(review) : students must review debate techniques learnt in previous classes before each new class.		
授 業 計 画		
第 1 回 :	Introduction to the course; Review of content of D&D I; discuss and choose topics for debate for the semester	第 8 回 : Topic 4: "Hot Seat" activity and discussion
第 2 回 :	Topic 1: "Hot Seat" activity and discussion	第 9 回 : Topic4: Debate preparation and debate
第 3 回 :	Topic 1: Debate preparation and debate	第 10 回 : Topic 5: "Hot Seat" activity and discussion
第 4 回 :	Topic 2: "Hot Seat" activity and discussion	第 11 回 : Topic5: Debate preparation and debate
第 5 回 :	Topic 2: Debate preparation and debate	第 12 回 : Exam Preparation (1)
第 6 回 :	Topic 3: "Hot Seat" activity and discussion	第 13 回 : Exam Preparation (2)
第 7 回 :	Topic 3: Debate preparation and debate	第 14 回 : Exam Preparation (3)
		第 15 回 : Exam (1)
		第 16 回 : Exam (2)
テキスト : This course will use a handout prepared by the teacher that the students will need to buy from kyoumuka		
参 考 書 : n/a		
評価方法・評価基準 : 1. Classroom Preparation and Classroom Participation 30% 2. Final Exam 70%		
履修上の注意 : <u>Discussion and Debate I (2 単位) を履修済みのこと。</u> Students will need to participate actively and enthusiastically in all preparatory and debate activities in order to get as much practice as possible prior to the final exam.		

授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員
Current Issues (Online)		

授業の到達目標及びテーマ

The objective of this course is to improve students' English and online learning abilities to increase their critical awareness and understanding of current issues that affect our lives locally, nationally, and internationally.

授業の概要

This course is conducted almost entirely online. Students will use email as well as internet sites to participate in the course. By the end of this course, the student should be more comfortable working and learning in an online environment, as well as have developed a greater understanding of current issues of importance. Students should also have developed a greater ability in thinking, talking and writing about these issues.

予習(preparation) : Review all academic writing that you have done. Take note of your strong points and of areas that you need to improve.

復習(review) : It is essential to review and make sure you understand each week's lesson.

授 業 計 画 [Topics may change depending on the current issues at the time of the course]

第 1 回 :	The what, why and how of online learning	第 9 回 :	Consumerism in Today's World
第 2 回 :	Reproduction issues	第 10 回 :	Feedback, editing and rewriting.
第 3 回 :	Feedback, editing and rewriting.	第 11 回 :	Slavery in Today's World
第 4 回 :	Hikikomori	第 12 回 :	Feedback, editing and rewriting.
第 5 回 :	Feedback, editing and rewriting.	第 13 回 :	Explaining the final report, topic selection and outline
第 6 回 :	Bullying in schools and the workplace	第 14 回 :	Submit final report
第 7 回 :	Feedback, editing and rewriting.	第 15 回 :	Feedback, editing and final rewrite.
第 8 回 :	Feedback, editing and rewriting.		

テキスト : None

参 考 書 : Access to a computer with an internet connection is necessary and mandatory.

評価方法・評価基準 :

Students will be evaluated in accordance with the quantity of their participation and, to a lesser extent, the quality of their writing. Since the course assumes and values the importance of dialogue and discussion of issues, quantity communicates a genuine desire to participate.

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度	Knowledge through basic research		Important	Important	Ability to express oneself in English		7 5
受講者の発表	同上		同上	同上	同上		1 5
演 習							
							1 5
その他							

履修上の注意 : Preferably, students should have completed English Composition I and/or II.

授業科目名	4 単位 (0－4)	担当教員					
English Composition II		Daniel Broudy ・ Ron Breines ・ Peter Wodarz					
授業の到達目標							
Composition instructors use a variety of methods to help students develop as practitioners and editors of their own writing. Central goals in this writing course are to develop explicit awareness of and skill in writing essays, to sustain an argument, to describe and/or define a problem, and to integrate the perspectives of others into the argument as support for the writer’s main points. Liberal practice in the development of introductions and conclusions, of topics within body paragraphs, and paragraph cohesion across a full essay is also stressed.							
授業の概要							
This course expands on composition skills gained in English Composition I. Students practice exercises in finding and narrowing subjects, generating and organizing ideas as well as drafting, editing and revising essays. Students are introduced to a range of expository styles and the principles of argumentation. They practice developing thesis sentences and communicating their positions on certain topics discussed in class and in course readings. Students are also introduced to methods in researching and citing sources in essays.							
予習(preparation) : Students can prepare for each class by referring to the guidance offered for readings after HW							
復習(review) : Students are expected to review all readings and discussions taken up during each class period.							
授 業 計 画 :							
Week 1 > introductions / syllabus / writing process / generating and organizing / outlining / HW							
Week 1 Review							
Week 2 > lectures / defining / keyterms / stipulations / extended definitions / connotations / HW							
Week 2 Review							
Week 3 > lectures / in-class readings / definition essays / critical analysis /HW							
Week 3 Review							
Week 4 > exercises to reinforce Weeks 1-3 content /reviews / quiz 1 / prepare essay for next week							
Week 5 > writers workshop / peer evaluation and instructor-lead critical discussions / HW							
Week 5 Review							
Week 6 > readings and exercises to reinforce Weeks 1-5 content / quiz 2 / HW							
Week 6 Review							
Week 7 > lectures / exercises/ deduction / induction / fallacies / HW							
Week 7 Review							
Week 8 > lectures / argumentation methods / persuasion / exercises / HW							
Week 8 Review							
Week 9 > lectures / contextualizing quotes / summarizing / in-class editing excises / HW							
Week 9 Review							
Week 10 > exercises to reinforce Weeks 6-9 content / reviews / quiz 3 / prepare for next week presentations							
Week 11 > student presentations for definition essays / prepare for essay for next week							
Week 12 > writers’ workshops / HW							
Readings for Week 13							
Week 13 > lectures / exercises / rhetorical tropes and schemes / HW							
Week 13 Review							
Week 14 > exercises to reinforce Weeks 11-13 content /reviews / quiz 4 / prepare for essay for next week							
Week 15 > writers workshop argumentation / practice sessions / HW							
prepare for presentations							
Week 16 > student presentations of final argumentative papers							
テキスト： Handouts of course materials and/or readings are provided for students in each class.							
参 考 書： Students are expected to take notes in lectures and review their notes.							
評価方法・評価基準：							
Grades are calculated from scores on essays, presentations, quizzes, and participation.							
到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)	○	○			○		40
小テスト・ 授業内レポート	○	○			○		20
授業態度			○	○			20
受講者の発表							
演 習	○	○			○		10
その他			○	○			10
履修上の注意： Participation is a major part of this course. This means that coming to class—on time—and focusing on the work is necessary for success. Surfing the Internet, playing on Facebook or some other social networking site, playing with your mobile phone, or some other electronic device not connected to the course, will affect your participation score.							

授業科目名	2 単位 (2－0)	担当教員					
Investigative Reporting		Chris Melley ▪ Daniel Broudy ▪ Ron Breines					
授業の到達目標							
Prerequisite: Successful completion of English Composition 2. This course is a survey of key areas of investigative writing that aims to develop independent thinking, skills in independent field research and the integration of results from interviews with people as a way to support observations and perspectives presented in articles.							
授業の概要							
Investigative Reporting is an upper-level writing course that introduces students to the principles of journalistic work. Students will learn about the value of collaboration, investigation, ethical reporting practices, truth claims, sourcing, and narrative approaches to journalistic writing.							
予習(preparation) : Students can prepare for each class by referring to the guidance offered for readings after HW							
復習(review) : Students are expected to review all readings and discussions taken up during each class period.							
授 業 計 画 :							
Day 1 > Introductions / investigation / social inquiry / reporting / HW review readings							
Day 2 > local environmental issues / HW review readings							
Day 3 > local social issues / selected readings / discussions / HW review readings							
Day 4 > local economic issues / selected readings / discussions / HW review readings / prepare for workshop							
Day 5 > writers' workshop / peer-review / instructor-led							
Day 5 > national environmental issues / selected readings / discussions / HW review readings							
Day 6 > national social issues / selected readings / discussions / HW review readings							
Day 7 > national economic issues / selected readings / discussions / HW review readings							
Day 8 > national political issues / selected readings / discussions / HW review readings / prepare for workshop							
Day 9 > writers' workshop / peer-review / instructor-led							
Day 10 > global environmental issues / selected readings / discussions / HW review readings							
Day 11 > global social issues / selected readings / discussions / HW review readings							
Day 12 > global economic issues / selected readings / discussions / HW review readings / prepare for workshop							
Day 13 > writers' workshop / peer-review / instructor-led							
Day 14 > workshop for presentations							
Day 15 > Presentations							
Day 16 > Presentations							
テキスト : Handouts of course materials and/or readings are provided for students in each class.							
参 考 書 : Students are expected to conduct interviews, take notes, and use notes in the development of article.							
評価方法・評価基準 :							
Grades are calculated from scores on articles, presentations, and participation.							
成績評価 到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
定期試験 (中間・期末試験)	○	○	○				50
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度			○	○	○		30
受講者の発表	○	○					20
演 習							
その他			○	○			
履修上の注意 : Participation is an important part of this course. This means that coming to class on time and focusing on the work is necessary for success. Surfing the Internet, playing on social networking sites, playing with your mobile phone, or some other electronic device not related to the course, will affect your participation score.							

授業科目名	2 単位 (2-0)	担当教員
Advanced Writing		Daniel Broudy
授業の到達目標及びテーマ：Prerequisite: Successful completion of English Composition 2. 習得した知識や能力を更に高める。授業時間内の演習を行い、十分な議論を考え出し、組み立て、一貫させるため、さらに技術を向上させる。レトリックの方法や、それが議論の際どのように役立つかに関する説明も行われる。主な内容としては、リサーチやサマリーの方法、ノートのとり方、適切な引用により主張を裏付けること、議論を展開すること、などがあげられる。学生は、日常生活に影響を与える問題や、学問、社会、政治、経済に関わる問題に真剣に考えるよう促させる。卒業論文のため、関心分野を探す助けとなる。		
授業の概要 This course expands on knowledge and skills gained in ECII. Students practice exercises and undertake an academic research project that develops skills in generating and developing fully developed arguments. Researching, summarizing, note-taking and using sources to support claims and develop discussions are all features of the course. Students are encouraged to think critically about issues that affect their lives or areas of social, political, or economic interest. 予習(preparation) : Students can prepare for each class by referring to the guidance offered for readings after HW 復習(review) : Students are expected to review all readings and discussions taken up during each class period.		
授 業 計 画 Day 1 > introductions / review syllabus / HW: read short essay "Sugar: Friend of Foe" pgs. 3-4 Day 2 > discussion of Unit 1 in small groups / finish exercises / HW: read Unit 2, pgs. 8-14 Day 3 > discussion of Unit 2 / finish all exercises in class / HW: finish brainstorming, outlining, and drafting first essay for Day 4 / read Unit 3 to understand any new vocabulary and the purpose of Peer Review during next class Day 4 > bring a copy of your essay to share with your classmate work through Unit 3 together / HW: finish your the Peer Review of your classmate's essay for the next class Day 5 > finish up Peer Review process, refer to "Put it Together" pg. 22 / writers' workshop for essay / HW: read Unit 4 to understand any new vocabulary and the purpose of Researching during next class Day 6 > discussion of Unit 4 / finish all exercises / HW: read and follow directions in "Put it Together" pg. 29 / read Unit 5 to understand any new vocabulary and the purpose of Outlining during next class Day 7 > submit essay for grading / lecture on brainstorming and outlining, how to move from subject area to topic, to brainstorming and creating an outline / discussion of Unit 5 / finish all exercises / HW: read Unit 6 to understand any new vocabulary and the purpose of Avoiding Plagiarism during next class Day 8 > discussion of Unit 6 / finish all exercises / HW: read and follow directions in "Put it Together" pg. 49 / read Unit 7 to understand any new vocabulary and the purpose of The Language of the Research Paper during next class Day 9 > discussion of Unit 7 / finish all exercises / read and follow directions in "Put it Together" pg. 59 / HW: read Unit 8 to understand new vocabulary and the purpose of Writing the First Draft Day 10 > discussion of Unit 8 / finish all exercises / HW: read and follow directions in "Put it Together" pg. 66 / read exercises 8 to 11 on pgs. 67 to 68 to prepare for discussions during next class Day 11 > discussion of exercises / writers' workshop for research paper / HW: read Unit 9 to understand any new vocabulary and the purpose of In-Text Citations during next class Day 12 > discussion of exercises / writers' workshop for research paper / HW: read Unit 10 to understand new vocabulary and the aims of academic language /do exercise 4 pg. 78, exercises 8 and 9 pg. 81, and exercise 10 pg. 82 Day 13 > discussion of exercises / writers' workshop for research paper discussion of Unit 12 / HW: prepare your presentation for the next two classes Day 14 > students' presentations Day 15 > students' presentations /submit final research paper		
テキスト : <i>Writing Research Papers</i> (Macmillan Writing Series ISBN: 978-0-230-42194-3)		
評価方法・評価基準 / Short Essay = 30% / Research Paper = 40% Participation = 30%		
履修上の注意 : Participation is an important part of this course. This means that coming to class on time and focusing on the work is necessary for success. Surfing the Internet, playing on social networking sites, playing with your mobile phone, or some other electronic device not related to the course, will affect your participation score.		

授業科目名	2単位 (2－0)	担当教員						
同時通訳 I (Simultaneous Interpretation I)		城間 仙子						
授業の到達目標								
・ 同時通訳に必要な訓練をこなすことができる ・ 基礎的な同時通訳、逐次通訳に必要な要素を理解する								
授業の概要								
同時通訳者は特別な人だけになれると思っていませんか？そんなことはありません。適切な訓練と鍛錬を積み、特別なバックグラウンドを持っていなくても同時通訳者への道は開かれます。この授業では、シャドウイング、サイト・トランスレーション、キック・レスポンスといった同時通訳のための独特の訓練法を用い、日・英両語の発音、イントネーション、語彙力、予測能力、同時通訳能力を高めます。特に英語のリスニング力を高めるため、CNN や NHK（日英両語）のニュースなどもを教材の一部として活用します。逐次通訳においては、教材やスピーチを聞きながらメモを取り通訳をする訓練をします。また、クラスメートのスピーチを逐次で通訳し、必要なプレゼンテーションの要素も学習します。								
予習(preparation)：配布資料の予習 復習(review)：授業内容の反復と応用								
授 業 計 画								
第 1 回：	通訳とは、同時通訳と他の通訳の違い、通訳のための訓練について	第 9 回：	日・英両語のニュース同時通訳（シャドウイングを中心に） 1					
第 2 回：	シャドウイング（発音、イントネーションの練習）	第 10 回：	日・英両語のニュース同時通訳（シャドウイングを中心に） 2					
第 3 回：	語彙（単語・固有名詞を含む）のクイック・レスポンス	第 11 回：	通訳者としての立ち振る舞い（マナー）					
第 4 回：	予測練習	第 12 回：	メモ取り					
第 5 回：	リテンション・リプロダクション	第 13 回：	逐次通訳（日→英）					
第 6 回：	サイト・トランスレーション	第 14 回：	逐次通訳（英→日）					
第 7 回：	日・英両語の原稿を用いた同時通訳練習 1	第 15 回：	月曜礼拝メッセージの同時通訳					
第 8 回：	日・英両語の原稿を用いた同時通訳練習 2							
		上記 2～15 を 15 週適宜行う。						
テキスト：授業担当教員が準備・配布します。								
評価方法・評価基準：ラボで毎回個人をモニターする。月曜礼拝メッセージの同時通訳。								
成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)								
小テスト・ 授業内レポート		○	○	○		○		60
授業態度				○	○	○		20
受講者の発表								
演 習		○	○	○	○	○		20
その他								
履修上の注意：								
遅刻しないこと。USBを常に持っていること。語彙を増やす努力をすること。 月曜礼拝のメッセージに聞きなれること。日・英両語で新聞を読むこと。								

授業科目名		2 単位 (2－0)	担当教員					
同時通訳Ⅱ (Simultaneous Interpretation Ⅱ)			城間 仙子					
授業の到達目標								
・ 同時通訳に必要な訓練をスムーズにこなすことができる ・ 基礎的な同時通訳、逐次通訳ができる								
授業の概要								
同時通訳Ⅰで学んだものを更にステップアップし、日・英両語で同時通訳が出来るようになることを目的とします。演習の内容は同時通訳Ⅰと同様（詳しくは「同時通訳Ⅰ」をご覧ください）ですが、これらをさらに徹底し、より豊富な語彙力、安定した文法力、的確な表現を目指して同時通訳に備えます。実践演習として、月曜礼拝の同時通訳にもチャレンジします。								
予習(preparation)：配布資料の予習								
復習(review)：授業内容の反復と応用								
授 業 計 画								
第 1 回：シャドウイング (発音、イントネーションの練習)		第 9 回：日・英両語のニュースの同時通訳練習 1						
第 2 回：語彙（単語・固有名詞を含む）のクイック・レスポンス		第 10 回：日・英両語のニュースの同時通訳練習 2						
第 3 回：予測練習		第 11 回：メモ取り						
第 4 回：リテンション・リプロダクション		第 12 回：逐次通訳（日→英）						
第 5 回：サイト・トランスレーション		第 13 回：逐次通訳（英→日）						
第 6 回：日・英両語の原稿を用いた同時通訳の練習		第 14 回：月曜礼拝メッセージの同時通訳						
第 7 回：スピーチの同時通訳練習		第 15 回：特別講演等の同時通訳						
第 8 回：日・英両語の新聞記事読解								
テキスト：担当教員が準備・配布します。								
評価方法・評価基準：ラボで毎回個人々人をモニターする。月曜礼拝メッセージ同時通訳。特別講演同時通訳。								
成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)								
小テスト・ 授業内レポート	○	○	○		○			60
授業態度			○	○	○			20
受講者の発表								
演 習	○	○	○	○	○			20
その他								
履修上の注意：遅刻しないこと。USBを常に持っていること。語彙を増やす努力をすること。 月曜礼拝のメッセージに聞きなれること。日・英両語で新聞を読むこと。 NHK、CNNのニュースをよく聞くこと。								

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
比較文化 (Comparative Culture)		仲里 和花
授業の到達目標及びテーマ 到達目標：アメリカの広告を学ぶことで、アメリカ社会の価値観を知り、日本文化とアメリカ文化の共通点と相違点を理解できること。 テーマ：コンピューター、化粧品、牛乳、タバコ、衣料、車、アルコールなど。		
授業の概要 日本とアメリカの基本的な文化の違いを、両国の歴史的な背景を概観しながら考える。 たとえば、風俗や習慣、衣食住、家庭、教育、社会問題、言語、スポーツなどの事柄を宗教、人種、民族、文化などに対する観点から比較し、文化の相対性の視点と、多角的な視点から文化を捉える方法論をさぐる。また、日米を中心にしながら、他の文化をみる視点の基本も養う。ディスカッションの機会を出来るだけ増やし、学生の批判的能力・口頭表現能力の育成にも留意する。今年は、広告を通じてアメリカ文化に触れ、日米社会の価値観を比較するとともに、自分自身の価値観をも自覚させることを目的とする。 また、アメリカのCMも授業でとりあげる。 予習：英語のテキストを読んでくること 復習：教師作成の study guide の質問に答えること		
授 業 計 画		
第1回：文化を比較することにはどのような意味があるのか	第9回：sports wear	
第2回：なぜ、文化を比較するのか。ーグローバル時代を生き抜くための教養ー	第10回：cosmetics	
第3回：アメリカの歴史、人種・宗教、広告の目的と機能	第11回：gun control	
第4回：global communications	第12回：jeans	
第5回：milk	第13回：cigarettes	
第6回：men's underwear	第14回：cereal treats	
第7回：cars	第15回：まとめ	
第8回：まとめ（中間）	第16回：期末テスト	
テキスト：Kumi Inoue <i>In Touch with American Ads</i> （心に響くアメリカの広告）成美堂		
参 考 書：・有賀貞『概説アメリカ史』有斐閣 ・苅谷剛彦『比較社会・入門』有斐閣 ・エスターワニング『アメリカ人』河出書房 ・Kumi Inoue <i>Ads Speak American Culture</i> （広告からみたアメリカ文化）成美堂		
評価方法・評価基準： 授業への参加度(10%)、授業での発表(10%)、課題レポート(10%)、テスト(70%)により総合的に評価する。		
履修上の注意：文化比較をおこなう場合、とかく違いが強調されやすい。しかし、文化の違いと同時に、文化の共通性も理解してほしい。		

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
異文化理解 (Cross-cultural Understanding)		新垣 誠

授業の到達目標及びテーマ

知識理解：文化的他者の概念を説明できる。 関心意欲：他者の歴史に興味を持てる。
 思考判断：文化から社会的・歴史的背景を指摘できる。 態 度：他者の声を聴く態度を持つ。

授業の概要

新たな世紀が明けると同時に私たちが目にしたのは、異民族・異文化の衝突であり、耐えることのない紛争である。グローバル化の進展は、更なる人々の出会いを生み、異文化の出会いを生んでいく。様々な文化や価値観との出会いのなかで、文化的他者を理解し、共に生きるとはいかなることなのか。様々な文化が生成していくプロセスのなかに込められた人々の声を聞き、その思いを探る。

「文化」を理解するカギとして、この講義では特にアメリカ黒人音楽の歴史を例に、文化にまつわる諸テーマを考える。ディスカッションの機会を出来るだけ増やし、学生の批判的能力・口頭表現能力の育成にも留意する。

予習：次回の内容予告を受け、基礎的な用語や歴史、事実関連を調べること。

復習：次回の内容との関連性を考え、概念などの再確認をおこなうこと。

授 業 計 画

第1回： 「文化」とは？「異文化理解」とは？	第9回： 現代アメリカの社会問題とヒップ・ホップ
第2回： 大航海時代と異民族・異文化接触	第10回： レイシズムと音楽
第3回： アメリカ合衆国の歴史と奴隷制度	第11回： 沖縄の音楽と文化
第4回： 奴隷解放とブルースの誕生	第12回： 歴史・社会・文化
第5回： 北部都市シカゴと R&B	第13回： 比較文化論
第6回： 貿易港ニューオリンズとジャズ	第14回： 日米における教育と文化の関連性について
第7回： ブルースからロックへ	第15回： 「文化」の概念再考
第8回： 抵抗の音楽～レゲエ	第16回： 総括

テキスト： 教材は、そのたびに講義担当者が準備する。

参 考 書： 講義についてそのつど提示する。

評価方法・評価基準：

レポートやエッセイを課す。講義でのワークショップなどへの積極的参加が最も重視される。

成績評価 到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
定期試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート	○	○			○		70
授業態度			○	○			30
受講者の発表							
演 習							
その他							

履修上の注意：